

栗山地域まちづくり懇話会 “くりやま茶論”

日 時：平成 30 年 7 月 1 日（日）10：00～

場 所：栗山庁舎

テーマ：地域力を高めるまちづくり

次第：1 開会 栗山行政センター所長

2 挨拶 日光市長 大嶋 一生

3 意見交換

4 その他

5 閉会

《意見交換内容》

参加者 1 日光市全域でそうだと思うのですが、特に過疎地域の栗山と足尾は、若者の人口減少が特に進んでいます。当地域における若者の雇用の場所がないことが、一番の要因であると考えます。就職先を求めて地域外、県外に出ていく人が、ここ数年、湯西川でもほとんど若い人が残らない、後継者もないという現状でございます。特に湯西川、川俣地区もそうだと思いますが、今市地域だったら通学できますが、宇都宮とか小山とか今は色々なところに進学するので、子供が昔のように下宿がないそうなので、子供が高校へ行きますと、ご主人を一人残して子供の世話をするために奥さんも一緒にまちへ出て行くというような傾向が、ここ何年か目立ちます。奥さんが帰ってくればいいのですが、学校が終わっても帰ってこない奥さんがいるのです。本当に寂しい限りです。そういうことがありますので、若者が永住しやすい雇用の場が環境整備できたら、そういった問題も少しは解消できるのではないかと思います。若い人がいないので年寄りばかりですと、どんどん地域の活力もなくなってしまいます。そういった課題につきまして、何かいい解決策がありましたら教えていただきたいと思います。もちろん日光市に 100%依存するのではなくて、自分たちができることは色々考えまして、若者が暮らしやすい、残りやすい地域の受け入れ体制と、安心して子育てができる地域づくりを行うことは、自分たちにできると思います。日光市にお願いしたいことは、若者の定住者、子育て世代の定住者に、何らかの支援ができないものかということをお願いしたいと思います。これに関連して、解決策や支援できるいい方法を教えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

総合政策部長 先ほどお配りしました、まち、ひと、しごと創生総合戦略とこれがまさに人口減少対策に対処して、市全体の話になってしまうのですが、対処方法の考え方とかの事業をまとめたものです。簡単に説明しますと 1 ページ目を開いていただいて、何もしないでこのままだと人口がどんどん減って行って、3 万 5 千人くらいになってしまうのを、何とか 5 万人くらいまでにとどめたいということで、そのためにまちをつくる、まち、ひと、しごとそれぞれこんなことをやって、少しでも人口減少をとどめるため、定住者を増やす、そういったことをまとめた施策です。当然ですが、仕事づくりであったり、観光面での対策とか、福祉の関係とか、安心・安全とか色々なことをまとめてありますので、それぞれの分野で、この定住ということを意図して施策に取り組んでいくというのが大前提です。総合政策部として取り組んでいることを、いくつかお話ししたいと思います。今、お話がありましたが、地元に住んでいる方、若者が地元へ愛着を持ってもらう、これは確信的に大事なことなのだと思います。そのために、今やっている

ことは、若い人にあなたの好きな場所ってどこですかということを問いかけて、それを SNS で発信してもらって、自分のまちのいいところ、自分が住んでいるところのいいところを改めて認識してもらって、そんなことを昨年取り組んだ事例もあります。先ほど地元の人に残ってもらうという話でしたが、それと同時に、外からも来てもらって、例えば結婚につなげる、出会いの場をつくって、地元の人と外の人で結婚して、日光市内に住んでもらうとか、そういったことも今考えて、縁結びプロジェクトのようなこともやっております。そういった諸々のことで、地元へ愛着を持ってもらう、地元のいいところを認識してもらう、それと日光市に来てもらうきっかけづくりをする、出会いの場をつくる、そういったことで少しでも定住に繋げていきたいというようなことを進めています。日光市は広いので、特に栗山、足尾という話がありましたが、同じことをやってもなかなか難しいという面があると思います。栗山の良さというのを、なかなか簡単にはわかってもらえないかもしれませんが、そういったこともまずは自分たちが意識することで、それが表に出てきやすい、そんなことをやっていきたいなと思っています。先ほども出ていましたが、自分たちでできること、こういった意識を地域の方と意見交換しながら現状を良く把握し、何ができるのか、例えば先ほど下宿の話は、今に始まったということではなくて、ずっと続いていると思いますが、そんな中で、そこに対してどういう手立てができるのか、日光市にこっちに高校をつくるのか、職場をつくるのは難しいので、今市あたりに住むところを確保する仕組みとかで、その辺で何ができるのかというのは、現状の話をよく聞かせていただいて、日光市ができること、地域の方ができること、望んでいること、そういったことを整理しながら、時間がないとは思いますが、お互いに話し合いながらもつくっていききたいという思いでございますので、よろしくお願いいたします。

参加者 1 解決策というのは、栗山村時代には進学する人のために、今市に賄いをしてくれるおばさんを雇っていて、そういう施設があってそこに住んで学校に通ったということがあります。今の時代ですから、日光市の予算関係もあると思うのですが、建物そのものができなくても、例えば日光市で持っている今市管内のどこかに空いているハコモノのがたくさんあるので、そういったものを活用して遠くの人に支援するということは考えられないでしょうか。

総合政策部長 まさにそういったことを考える必要があるなと思います。栗山の人でも足尾の人でも同じことが起きていますので、今のご提案をもっと広い視野で考える、例えば、日光明峰高校も継続する上で非常に子供が減っていますので、そういうところと一緒に考えられる分野があると思います。そういう課題を改めて確認して、それを結びつけながら、何らかのかたちでできることはないかを考えていきたいと思っています。今、それをやりますとは言えないですが、大きな課題で、いいひとつのアイデアだと思いますので、それは考えていきたいと思っています。

参加者 1 よろしくお願ひしたいと思っています。日光市でつくった建物で、使っていないところもたくさんあると思います。そういったものを栗山、湯西川だけではなくて、今言ったように足尾高校もなくなっているので足尾の人でも、1つの建物に住んで通学するのもいいことだとは思っています。親にも負担をかけない、奥さんが旦那さんをおいて出て行ってしまわないように、ぜひ協力してやってもらいたいと思います。すぐにやってもらえるものとは思いませんが、そういったものが何年か前から出ているので、できればそういったものを早急に考えていただきたいと思っています。

行政経営部長 次に9番の方ですが、地域力を高めるということで、3つほどご提案をいただいているので、これにつきましてお話をお願いします。

参加者9 私は嫁いで21年になるのですが、日々子育てをしながら感じていること、生活をしながら感じていることとお話しさせていただきます。人材育成として、よそ者の気持ちを今住んでいる方たちと共有をして、何か新しいものが生まれるのではないかとというものにすごく関心を持ってしまして、地域課題を解決するために、地域内外の企業や大学そういう関係者との協力を築きながら、一緒に未来に向かう橋渡しを行う人材、地域コーディネーターを養成することで、何か変わっていくのではないかと1つ考えています。2番としては、最近もまた大きな地震が大阪のほうでありましたが、栗山に住んでいまして、大きな災害があると、山ということで不安があるという部分もありますので、地元の方と避難所体験を年に何回か開催できればと思っています。行政の方と地域の住民が力を合わせて、困難を乗り越えられるようなマニュアルづくりや、体験会をどんどんやっていければいいなと思っています。3番は、今スマホなどが普及していますが、パソコンは大きすぎてしまうという部分もあるので、タブレットの講習会を開催しながら、地域の方が山の暮らしでも色々な方たちと交流できたりとか、買い物ができたりとか、そういうものをどんどん導入して、こういうことがあったのだと、こういう世界があったのだと、この山の暮らしを続けていっても大丈夫だなと、自信に繋がる1つのきっかけになればと思っています。

地域振興部長 最初の人材育成についてお話しします。日光市全体の人材育成という意味で言うと、地域の課題を掘り起こし、若者独自の観点から地域のまちづくりに取り組む日光創新塾や日光活学舎の事業があります。また、高校生について、自らまちづくりについて考えていただく高校生アカデミーであるとか、中学生のまちづくり体験塾とか様々な取り組みを実施しています。

それとは別に、栗山地域での特別な取組というと、先ほどおっしゃられた地域コーディネーターそのものと合致するかどうかは分かりませんが、まさにそういった役割を担っていただくような1つの方策が、地域おこし協力隊となります。現在、栗山地域には4名の協力隊員が配置されていますが、そういった方が今おっしゃったような、様々な地域のまちづくりとか、人との連携とかといった部分で、コーディネートの役割を担っていくこととなります。今回、そのOBやOGの方にも懇話会に参加していただいておりますが、地域に根差した活動ということで、非常に活躍されていると思います。そういったところをコーディネートの役割として機能させていくということもあります。

また、大学ということも記載されていますが、宇都宮大学や文星芸術大学などとの連携協定も結んでいます。栗山ならではの地域課題についての検討や協議など、色々やっていく中では、そういった大学との連携も図れるのかなと思います。そういった様々な関係を資源として活用していく、すでに独自の取り組みとして、例えば土呂部での茅ボッチといったところで、地域と一緒に取組んでいる事例もあります。栗山地域には活用できる人材とか、色々なところと連携している実態がありますので、そういったところを更に有機的に繋げていくという意味で、行政もそうですし、地域に入っていらっしゃる地域おこし協力隊の方もそうです。

もう1点は、高齢化集落に関するアドバイザー制度というものがあります。これはあまり耳なじみがないかもしれませんが、こちら、高齢化集落に関してのものですから、当然、高齢化が進んでいく中で

地域課題を一緒に考えるという部分で、活用できる仕組みですので、そういったものも地元と行政センターと一緒に考えていく必要があると思っています。

行政経営部長 防災関係の話をさせていただきます。今、お話のありました防災マニュアル、たぶん危険個所のマップとか、その際に自治会はどう動いたらいいのか、そのようなマニュアルなのかなと思いますが、実際にこういったものをつくっている自主防災会もあります。その指針となるような参考資料は総務課の防災対策室にありますし、ご依頼いただければ総務課で伺いまして出前講座というかたちで、こういうことができますよ、こういうものもいいですねという話の講習もできますので、ご利用いただければと思います。また、避難所の体験につきましても、1つの自治会としてやっているところはないのですが、社会福祉協議会が主になってやっているところもありますし、避難所体験もできますので、こちらのほうも合わせて総務課の防災対策室にご連絡いただければ、皆さんと協力してこういった訓練や、先ほどのマニュアル作成などもできるかと思っていますので、ご相談いただければと思います。

地域振興部長 3つ目に、タブレットの講習会の開催というものがあります。こういった取り組みと申しますか、何らかの支援があれば地域で取り組みやすいということがあれば、市でも、自治会単位の部分とか、まちづくりの取り組みとして、ある程度ボランティアグループとかに対して、市の助成制度みたいなものもあります。そういったものについてもご相談いただければ、こういったものに活用するというのも可能だと思いますので、具体的な内容について、検討させていただきたいと思っています。

参加者9 専門的なものをわかる方に来ていただく機会というのを、もっともっと増やしていただく、そういう方たちを囲んで勉強会とかを、どんどん進めていくのも地域力を高める1つかなと思うので、そういう方たちの講習会やセミナーの機会を、どんどん栗山でも開催していただけるようお願いいたします。

行政経営部長 次に高齢者の支援ということで、高齢者の通院などへの交通支援というご意見をいただいています。3番の方お願いします。

参加者3 私が書いたのは、高齢者の交通手段の確保をこれからどうしていくかということが、栗山の大きな課題だと思います。この前の下野新聞を見ますと、公共交通カバー率が日光市は84%、前は90%ということが出ていました。栗山の場合、交通機関はあるのですが、これはほとんど観光業の方、観光客の方たちのダイヤルであり、運行だったりして地域住民のためのバス運行ではないと思います。高齢者は乗りづらいとか、時刻が地域の実態に合っていないとか、そういうことでどうしても自分で今市とか他地域に出ているのが現状です。この人たちが高齢者になって、運転免許を返納したり、自分で運転できなくなってくると、どうしても交通手段がなくなってきます。どうしたらいいかということで、デマンドバスとか交通のものを、もう少し考えてほしいということはあるのですが、これは実際日光市としては無理かなと思います。それでは何をやるかという、地元地域で送迎なり、何なりの組織を起ち上げて、それでボランティアの人が運転して、地域の高齢者の送迎とか、通院とかの手段を確保していくことが、一番ベストな方法かなと思います。ただ、これを起ち上げるにあたっては、いろいろ問題が出てくるのか

なというところが、私どもがなかなか手を出しにくいところなので、どのような方法があって、どのようにしていけばボランティアで地域の交通手段を確保できるか、日光市として教えていただいて、自分たちでボランティア組織のようなものを起ち上げて、運営はボランティアでというかたちでやるしかないと思うので、その辺のアイデアを教えていただきたいなと思って、私はこれをあげました。タクシー業界との関係もあって、タクシーのようなかたちでの参入はできないという話も聞きましたので、その辺のところも合わせてお願いします。

健康福祉部長 高齢者ということでお話があったのですが、健康福祉部の視点からお話をさせていただきます。栗山地域については、高齢化率が5割を超えているという状況ですので、地域として高齢者施策という視点ではなくて、地域の特性に応じた交通のあり方という視点が、今後必要だと考えております。交通の場合には道路運送法に該当するのと、道路運送法に該当しないものに分かれます。道路運送法の公共交通以外ですと自家用有償運送です。お話のありましたボランティアですと、有償ではないという話で実際にやるとすると、これは道路運送法以外の基準の中でやるしかない、その中ではどのようにやっていくかというのは具体的に決めていかないとなかなかうまく回らないということがあると思います。日光市でやっているのは、福祉有償の運送とか、移送サービスというのをやっているのですが、これはあくまで福祉的な視点で、身体的、経済的に公共交通等が使えない方に対して、無償で移送サービスを提供しています。基本的には、病院への通院ということを前提しております。地域全体で6台確保しているのですが、栗山地域ですと1台確保して運行しているという状況です。それ以外ですと、福祉有償運送というものがあまして、これは民間の5事業者が道路運送法に基づく、法の中でやっているということです。その中には栗山地域にも運行区域として、動いているところもあります。これは福祉有償ということで、福祉部門ということになりますので、身体障がいがある方や支援が必要な方が利用できます。それ以外の一般の高齢者の皆さんや一般住民の方ですと、地域の公共交通だけではなかなか十分な交通の確保ができないという中で、先ほど話がありました地域でボランティアを行うとか、NPO法人を起ち上げて有償運送でやっていくとか、そういった手法が考えられます。この部分については、地域としてどうしていくかという全体的な視点が必要になってきますので、実際に利用する方は高齢者が多いのかもしれませんが、その運行形態をどうやっていくのかというのは、ある程度高齢福祉の視点だけではなくて、地域づくりという視点を含めて、検討していく必要があるのかなと思います。そういった点から考えますと、役所のいろいろな部門が関係してきますので、そういった中で意見交換をしながら、今後の方向性のアドバイスや色々な情報提供であるとか、そういったことができるかと思えます。

参加者3 移送サービスとかがあるのはわかっているのですが、これはどうしてもものすごく条件が厳しくて、一般の高齢者の方は利用できないと私は言われました。山間へき地は、特別な運行条件で何とか認めてもらえないかという話をしたのですが、これは生活保護を受けているとかそういう条件があって、他地域との整合性もあるので、栗山だけ優遇することはできないという話で、移送サービスもダメ、それ以外の公共移送もダメ、福祉タクシーの話もありますが、地元にないので、鬼怒川から呼んでそしてまた鬼怒川に戻ってもらうには、早朝に来て夕方遅くというかたちで料金もかかるということで、公共の整備されたものに該当しない人たちがたくさんいます。生活保護を受けずに生活をしてはいますが、高齢者でとても交通が利用できない、そういう人たちをどう救っていくかというのは、栗山地域または足尾

地域、奥日光の地域の人たちも課題になってくるかと思うので、何か地元でそういう協力した組織をつくって、例えば公共の車を1台活用させてもらって、運転者はボランティアがするというかたちのシステムが、日光市がある程度こういう条件であればできますというかたちを示してもらって、それを私たちが検討して、こういうかたちで組織をつくってやりましょうと、そういう仕組みを教えてもらえないかという思いがあるわけですが、もしそういう仕組みができようになりましたら、よろしくご指導をお願いして、日光市と協力して私どもはボランティアを集めたり、ボランティアの運営などはみんなで協力して、地域のためにやっていきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

副市長 この点については、すべてカバーできる回答になるかはわかりませんが、先ほどおっしゃったように、足尾地域も同様なのですが、通常、買い物ツアーという名前を付けて実施しているのですが、それもやはり毎日というわけにはいきませんし1ヶ月に相当の回数を実施することも難しいなか、買い物の楽しみを味わうために実施しているというのが現状です。日常の生活物資を調達するには、宅配事業者や移動販売などで調達は少なくとも可能だと思いますが、買い物の楽しみというのは、宅配事業者だけでは足りなくて、自らの目で、自らお店に赴いて選ぶという楽しみを味わうということが非常に大切ですので、そういう意味で買い物ツアーというものをやらせていただいているところがあります。そこが地域の方の協力が得られて、車の調達などを仮にできたとすれば、まさしく望むところでありまして、そこができるような仕組みができれば、市としても望ましいかたちだと思います。足尾では、社会福祉協議会で、ひきこもりがちな高齢者の方を買い物に連れ出して、その道すがら車の中で楽しいお話もできるのではないかという、ふれあいの機会を設けたりということも考えはじめております。それが栗山でフィットするかどうかということもあるのですが、足尾では他に商店があったりするので、大々的な買い物ツアーということは難しい状況で、そこは地域によって状況は様々だと思います。そんなことを共に考えていければと思いますので、よろしくをお願いします。

行政経営部長 それでは続いて、栗山の地域力はどうしても観光というところは外せないかなと思います。5番で観光の振興によって地域力を高めるとのご意見をいただいています。こちらについてお話をいただければと思います。

参加者5 地域に偏ってしまいますが、川俣でも同じような話があると思いますが、栗山村が合併しまして、行政が1つになったということで独自にやってきたものが、2市2町1村、他の地域に合わせてやるということで、予算的にも厳しくなってくる部分もありますし、またその中で人口流出もあります。働く場所の雇用も必要ですが、現状では、湯西川で言えば観光力を上げないと雇用の場もつukれないであろうし、また若者が帰って来られる環境ではなくなってしまうのではないかと考えています。実際に地元で若夫婦が帰って来ておりますが、自分の旅館を手伝い始めましたが、平日は非常に少ないものから、帰ってきたのはいいのですが、平日は今市のほうに働きに行っているそうです。そういう中で、我々地域としても、できるだけそういうお店を使ったり、いろいろ励ましたりしています。そういった人たちが帰って来なくなってしまうと、湯西川のイベントも当然できなくなってしまうし、私の子供も旅館を継ぎたいということで、今は東京に行っていますが、いずれ帰って来るときのために、環境を整えたいと考えております。そういう中で、今後考えられることは、今、湯西川には旅館が16軒ありまし

て、全員がほぼ強制的にイベントに参加して、冬のかまくら祭りであるとか、昨日 DC 期間で終わりましたが、川あかりとか色々なかたちでやっています。その中で必要なものは資金であります。自分たちで、無償でやっているわけですが、やはり助成的なものが当然必要になってきますし、今、観光協会の中でも当初合併に関しては対等合併でしたが、やはりある程度過ぎてきますと、会員数に応じて手厚くしてくれるとか色々ありまして、栗山もだいが厳しくなってきた状況です。できれば観光協会に対しての市の支援であるとか、もちろん人的支援というかたちで言えば、平家大祭においては日光市の職員の方の協力を得ながらやっているのが実情ですが、これは川俣においても同じだと思います。そういうことで、日光市の支援をいただきたいということを考えています。

観光部長 まず観光が働く場所に繋がるというお話ですが、まさしく日光市の場合、観光を基幹産業と捉えておられて、観光に関わるものというのは、当然宿泊とかガイドをするとか、色々その野の広い部分の産業ですので、そういったものを進めることは雇用の創出にも繋がっていくものと捉えておられます。資金とか人的支援というお話ですが、確かにイベント等をやっている中で、協会からの補助や支援、日光市からの補助といったものはやらせていただいておりますし、平家大祭は日光市の職員も手伝いに行って、支援をさせていただいている状況にあるかなと思っています。ただ、費用に関しましては、先ほど市長の話の中にありましたが、財政的には合併後の特例債があった中で、合併時における支援が終わっていく中、厳しい人口減少があれば、それに伴って税収が落ちる可能性もありますので、そういった中で、どういう支援ができるかという話になるかなと思います。イベントを頑張っているが、イベントだけではなくということが書かれていますが、確かにイベントも重要ですが、他の観光資源というものも磨き上げていく、それからお客様のニーズというものも変わってくると思いますし、来られる方もインバウンドとかありますが、そういった中で日本人と異なった目線の外国人の方もいらっしゃると思います。そういった意味で、確か金曜日に DMO 日光と打合せをしましたが、そういったかたちで、日光市としましてもそれぞれの地域が持っている資源を、まずはヒヤリングからさせていただいていると思いますが、そういうことに関しては、市としても一緒に取り組んで新たな資源が各地域にあると思いますので、そういうものを磨き上げていきたいと思っています。

参加者 6 地域力を高めるために、まずは道路整備です。道路が狭くてあちこち拡張をしてもらっていますが、要するにつぎはぎだらけです。そんな状況なものですから、お客様も来るのに疲れに来るような感じなのです。ちなみに路線バスも、鬼怒川温泉から女夫淵まで約 1 時間かかりますし、道路が狭いので前からバスが来ると相互通行もできないので、バックしてやるような状況です。道路整備が 1 点と、もう 1 つは公衆トイレを、和式から洋式へ何カ所か変えてもらったのですが、女性の方は、汚い感じがして好んで入らないのです。私どものところへ来てトイレを貸してくださいというお客さんが結構いますので、清潔なトイレをぜひつくっていただきたいと思っています。あと、観光の開発ということで、名所のトレッキングコースとかなのですが、栗山地域は、源流ツアーを始めまして 5 年目に入りますが、費用対効果とか重要だと思っていますが、そればかりではないと思います。そのことも日光市で考えていただきたいと思っています。私は昨年も言ったのですが日光市営バスを、ぜひ道の駅湯西川に立ち寄ることができないかと。もう 1 つは女夫淵発の日光市営バスの最終が、17 時 30 分発で、青柳で終わりなのです。これをシーズン中だけ、鬼怒川に行くことができれば、お客様が鬼怒沼などに行くことができるかと思っています。

建設部長 栗山地域の日光市の道路としては、川俣温泉～川治線、黒部～西川線と国道 121 号線というかたちになりますが、いずれも栃木県で管理をしているのですが、現在の実施状況を少し説明させていただきたいと思います。まず県道の川俣温泉～川治線につきましては、若間地区は平成 29 年度からトンネル工事の詳細設計を行っています。平成 30 年度も引き続き実施設計と用地の国有林の借り入れの打合せをしていると伺っています。また日向地区では、平成 29 年度に地元の説明会を行って了解をいただきましたので、詳細設計について平成 30 年度に実施をしていくと伺っています。次に県道の黒部～西川線につきましては、平成 30 年度も引き続き湯西川温泉街地区の工事を行っていくということになります。国道 121 号線につきましては、特に藤原から川治まで、国の直轄化でやっていただくという計画です。そこでいろいろな調査を平成 30 年度に行なっていくというかたちになります。いずれの路線も山間地域ということで、かなりの事業費がかかる関係ですが、日光市としましても早期に完成できるように、国と栃木県に要望活動を行なっています。

観光部長 続きましてトイレの件ですが、日光市では観光施設管理計画書というものをつくっておきまして、その中で公衆トイレは 76 箇所にあります。これだけ多くありますので、この計画に基づいて順次、洋式化に取り組んでいます。その度合いによって改修したり、新しくつくるというものもありますが、使われないところでは取り壊すというを行なっています。そういったかたちで、その計画に基づいて、トイレにつきましては計画的にやらせていただいております。トレッキングコースの話ですが、平成 26 年から源流栗山ツアーということで、参加された方のご意見とかご感想等はいただいておりますので、そういったものをお聞きして、このツアーについては定着させていきたいと考えています。

行政経営部長 市営バスの関係ですが、今日できます、できないということはお答えできないものですから、持ち帰らせていただき担当の者に伝えまして、検討させていただきたいと思います。

市長 観光のトイレとか全体的な振興支援の話が出ましたが、旅館組合の皆さん方に温泉に関することでお話ししたいのですが、今、日光市に入ってくる入湯税は、約 3 億 8,000 万円です。観光関連に支出しているお金については、トイレの整備とか観光協会への補助金だったり、それらを全部入れていくと全部で 10 億円近いお金を支出しております。

これからどんどん財政的に苦しくなってくると、10 億円というお金をいつまで支出できるかというのは、徐々に目減りをしていくということもあると思います。例えば、トイレの改修ができなくなるとか、トイレというのは常にきれいにしておかなければいけないと思うので、それはやりたいと思いますが、そういう意味で、観光で来るお客の皆様に入湯税 100 円を協力していただければ、合わせてホテル事業者の皆様がそれを代理徴収していただければ納めていただければ、約 2 億 4,000 万円近い税収増になります。そうすると、ずっと同じ数のお客様がお見えになっていただければ、6 億円ほど入湯税が確保できます。目的税ですから、それは全部観光に利用できます。観光なくして日光なしというくらい観光に関わっている市民の方は多いですし、今後もしっかりと観光の事業をやっていこうと思った時には、必ず必要な財源だと私は思っています。

なかなか会社を誘致しようと言っても、企業誘致は今市地域でもやっていますが、栃木県南のほう

に行くともっといい条件のところがいっぱいありまして、なかなか大きい工場を持ってくるというのは難しいです。しっかりと税収を確保しておこうと思うと、皆さんの協力がいただければ、税収を確保できる一番の施策、身近にできることだと思って、選挙戦の時も訴えさせてもらっています。ただ、消費税が上がる時期と重なるとか、いろいろ負担になる部分もあるかもしれませんが、できたら何とかそこは協力をさせていただきたいと思います。

まだ市議会議員の皆さまにも正式なかたちとして提示しているわけではありませんし、一般質問や代表質問で答えられる範囲で答えただけの状況ですが、庁内では、どのようなプロセスがいいかを考えて、皆様方に、観光協会とか旅館組合の皆さんと話をする機会を近々に持っていきたいと思いますが、ぜひ持ち帰りをいただいて話をさせていただきたいと思います。

集まったお金は必ず観光に使います。それは約束しますし、今、観光協会もエリアごと会社ごとで減ってきているということであれば、そこは今の数字、若しくはもうちょっと下駄をはかせるということではできると思うので、よろしくお願いします。

行政経営部長 環境美化による観光振興ということでご提案をいただいているので、よろしくお願いします。

参加者2 主に観光と言いますと、ホテルとかイベントが対象になってくる場合が多いかと思います。しかしながら、観光というものはそのホテルに到達するまでの、個々の名所や個々の風景、そして魚釣り、山を散策や山菜採り、そういった総合的なものがあろうかと思います。季節によりまして、栗山には結構多くのそういったお客様が心の癒しというか、オートバイとかドライブ、自転車の団体がすごく最近訪れています。そういったことを考えますと、自治会の中で一生懸命日光市の助成を得ながら、草刈りとか空き缶拾いとか、ダムサイドの藪に入っただけの缶拾いなどを行っていますが、意外とダムサイドの市道沿いに、とても景観の良いところに、何年か前までは考えられない布団や衣類、冷蔵庫とかが投げられています。この間も缶拾いとかをしたのですが、とても多くて持ち運びができない、袋も小さくて毛布1枚詰め込むのがやっとの状況でした。今は環境が大きく変わりました、ヤマヒルが季節によっては出て、従来いなかったのですが獣の影響もあって出てきています。民間の方が開発されたヤマヒルファイターズは、長く持つらしいのですが500mlで5、6,000円くらいするということです。自治会の方も頑張っただけなんですけど、やはり拾う人も躊躇します。ですから援助として、そういった消耗品を購入することも自治会としては、考えなくてはならないと思います。次に、空き家周辺の草刈り、樹木の枝切などがあります。放っておきますと、サルなどの獣は周辺に出てきます。考えられない例をご紹介しますと、プレハブがありまして、そこに大きな栗の木が横たわっております。クレーン車が入りづらいので、プロが滑車で持ち上げなどをして伐採しないことにはできない状況になっているところが1か所あります。とにかく自治会として頑張っただけで不法投棄の収集をやるのですが、日向中継基地に持って来いと言われても。具体的に言いますと、田母沢トンネルを越えますと大きな橋がありまして、渡り切りますと電話ボックスがあります。その沿道は市道です。電話ボックスからちょっと離れますと、途端に布団などが投げられている箇所もあります。拾うのにも腰にベルトなどをまいて、ロープを使って取らなくてはならない箇所もあります。それぞれの部署があるようですので、とりあえずご援助いただきながらやっていかなくてはならないので、よろしくご指導をさせていただきたいと思います。

産業環境部長 自治会の清掃活動については、年2回、6月と11月に全市クリーン大作戦ということで、皆さんにご協力いただいてやっております。その際に集められたごみについては、市のほうで収集するというのでやっていたところですが、基本的には不法投棄物の扱いになります。私有地のところに捨てられているごみについては、個人の方が自ら処分をしていただくことが基本になります。これについては、移送費や処分費の半分程度を、市で補助することができます。仮に自治会でやったときも、やり方は同じで、半分の費用の助成ということで、上限は決まっておりますが、助成をさせていただいています。先ほどお話が出ました、日向の中継基地、湯西川や川俣にも中継基地がありますので、そこに事前にお話をいただいた上で、持って来ていただいたものについて処分費のほうについてはかかりません。市のほうで全部処分はしております。これが今の不法投棄物のやり方になるということです。それからヤマヒルファイターズを何とかできないかということであれば、クリーン大作戦のとき、事前に廃棄物対策課にご相談いただければ、何かしらの支援というのはあるのかなと思っています。また袋の大きさですが、大きな袋を用意してほしいといったことであれば、ある程度対応はできるものだと思います。最後のがけ地のゴミということで、急傾斜地はなかなか手を出すことは難しいのですが、もし自治会のほうでこういったところを清掃したいということであれば、事前に廃棄物対策課にご連絡いただいて、どう処分していくかということを協議しながら、やっていければと思っています。なかなかがけ地については、所有者が国とかになるのかなと思いますが、自治会でぜひやりたいということであれば、市としても協力できるものがあると思いますので、そういったところは事前にご連絡いただいて、話し合いを進めていければと思います。

地域振興部長 自治会のまちづくり補助金を所管していますので、お話させていただきます。栗山全体で言うと、まだ過半数の自治会で活用されていないので、10万円、20万円単位のお金ではありますが、備品などにも使えますので、活用いただければと思います。

行政経営部長 次に4番の方で、空き家利用ということで、お願いしたいと思います。

参加者4 栗山地域は、ここ数年空き家がすごく目立つようになりまして、その利用方法を何とか上手くできないのかということで、騒がれています民泊の関係で、上手く利用できればありがたいと思います。栗山地域でも、それぞれの地区によってお祭りなどイベント関係がありますので、使えるような住宅があれば、市としても上手く利用してやってもらえればありがたい感じです。空き家周辺の管理に関しては、草刈りなどは自治会でやっているのですが、ただ、やっているだけでは意味がないので、何とか見栄え良く、常に人が入っていればまた違いますので、それをリードしてもらえるかたちをとってもらえればありがたいと思います。よろしくお願いします。

地域振興部長 空き家の活用といった観点での話だと思います。空き家に関しましては、統計調査やデータもありまして、栗山地域だけではなく、日光市全体として数字で言えば、18.9%の空き家があるという統計数値もあります。その後の市が実施した具体的な現地調査の中でも、栗山で70軒という数字が出ています。空き家に関する問題というのは、日光市だけではなく、全国的な地域課題です。

空き家そのものとしては、活用という側面もありますが、市のほうでは、まずは防犯・防災、危険という観点で取り組みを進めるかたちになっております。その意味では、空き家を撤去するとか、そういうことに対する助成はあり、活用ということになると空き家バンク登録制度になるのですが、この地域では活用登録の案件がないかもしれません。制度はニーズがないと、活用されないという部分があります。話のありました民泊の関係ですが、民泊の関係については6月15日から新しい法律が施行されて、非常にハードルが高くなってしまった側面もあり、民泊として活用していくには、相当なハードルをクリアしていかないと難しいのかなという部分があります。地域の資産として活用していく観点がないわけではないのですが、市としてはもう1つの側面として、公共施設をなるべく減らしていきましょう、要は身軽になっていきましょうという方向性もあります。この地域で言うと栗山館というのがありますし、そういった意味から言うと、なかなか民間の空き家の活用にまで、市が直接手を出していくのは、今の時点では難しいのかなと思います。

参加者4 あとは草刈りをしたときには、自治会としては見栄えを良くしたいので、ボランティアで草刈りをやったときに、補償関係もしてもらえればありがたいと考えます。

地域振興部長 先ほども言いましたが、自治会に関するまちづくりの補助制度がありまして、自治会によっては使われていないかもしれません。全額ではないので使い勝手の問題はあるのですが、ご相談いただければ、そういうことも活用できる範囲ですので、よろしくお願いします。

行政経営部長 次に、地域の資源の活用と観点ということになるかと思いますが、8番でご提案いただきました、学校の利用ということになるとと思いますが、こちらについてお願いしたいと思います。

参加者8 日向地区の中学校なのですが、閉校になって全然使用していません。グラウンドや体育館などを、地域の活性化のために利用させてはどうか、利用してもらってはどうかと思っています。また、地域内外からスポーツなどの合宿にも利用させてはどうかと思っています。今、学校はだんだん生徒が少なくなって、色々なところで閉校になってきていますが、この地域の青柳小学校も生徒が5人ぐらいで、中学校が8人と生徒が少なくて、10年後には学校を継続していくのが難しくなっています。その後の地域の使い方とか、閉校になった建物を、これから利用していくのを考えてほしいなと思います。自分たちができることは、やはり日光市の施設ですから、地域の活性化のために草刈りなど管理したいと思いますが、どのようにしてやっていったらいいか、個人的にはできないので、そこを考慮していただきたいと思います。

教育次長 まずは学校の施設ということで、現在も元栗山中学校の校庭と校舎が残っています。ただ、将来的には校舎の部分は取り壊したいとは考えていますが、避難施設等でまだ活用していくこともありますので、校庭と体育館はまだ残すと思いますが、協議中であります。地元でもまだ使いたいというような場合もあるようですので、それも含めて考えさせていただきたいと思います。さらに10年後というところは、どうなるかわかりませんが、またそこで学校が廃校になってしまうという状況が出てきましたら、地元の皆さんと協議させていただいて、そういう施設の活用も考える必要はあるのかなと捉えています。

副市長 補足ではないのですが、施設の利用ということで、学校が廃校になり、それから栗山館が廃止になっています。過疎計画と言いますか、過疎対策の中で整備をした建物であったり、水源地域整備事業というダム関係でつくったり、さまざまな施設をつくったのですが、先ほどの栗山館、もちろん子供も少なくなったので学校も使わなくなっている。そうすると栗山に限らず、他の地域においても施設として、これから廃止もしくは統廃合で学校も使わなくなると、その跡地利用は、またお金を費やすということが非常に厳しくなります。一方でこれを壊すということになると、壊すのにも大きい学校施設なら、下手をすると2億円程度かかかってきます。それはストレートに財政計画に影響を与えるということになって、今後の日光市はスクラップ事業のオンパレードかというくらいの話になってきています。壊すことすら、ままならない状況に陥っている、なおさら失敗した施設に対して、新たにお金を充当して、新たなことを実施するのは、非常に厳しい状況になってきます。できる限り活用できるものは活用していくこともあると思うのですが、先ほどの学校の例で言えば、体育館は避難所として残すことが可能か、学校の校舎本体については、ひょっとすると壊すこと自体も相当先送りをせざるを得ない状況になります。具体的に言いますと栗山中学校は、以前にご提案のあった、周りに存在している小教室については、地域で何か企画があれば、使っていただくのも可能なのかなと考えています。大きい施設をストレートに壊す前に、サウンディングと言って、民間のプロの企画力を活かして、こんな建物があるのですが、もしかして使うようなアイデアがありますかとプロモーションして、プレゼンテーションをしていただくということを、まず壊す前にアイデアとして途中にかませてみるということもやろうとしていますので、そういった段階を踏んで進めていくことになると思いますので、よろしくお願いします。

行政経営部長 続きまして、地域の資源という地場産品の意見をいただいているのですが、10番の方よろしくをお願いします。

参加者10 地場産品の復活ということで書かせていただきましたが、栗そば会でも、栗山でそばをつくらせていただいて、毎年栗そば祭りというかたちで、皆さんに食べていただく場を提供しているのですが、そこで皆さんに直に食べていただいて、顔を見させてもらうということがすごく大切だと思っています。普段の辛い作業もありますが、皆さんが喜んでくれている姿が見られるからこそ、そういうときも頑張っていけます。そういうことを地域全体に広げられたらなということで、野菜をつくっている方もたくさんいますので、そういう方たちが気軽に野菜を卸せたり、野菜を売りたいという観光施設なども結構ありますので、どのようにやったらいいのかわからないという声もかなり聞いておりますので、そういう方たちが勉強しながら、出すほう、お店が売りやすいようなかたちを勉強させていただく機会を、ぜひ設けていただきたいと思います。

産業環境部長 ここに書いてある耕作放棄地・遊休農地というところで、農地を集約して誰かに借りていただいて、小作するということになりますと、扱いは農業公社の窓口になりまして、そういったところに相談していただければ、貸し借りをやって新たにそこでそばなどの農産物をつくるということは、可能になるのかなと思っています。地場産品を売りたいというところなのですが、個人の方で農協などに入られていない方が、自分のところをつくったものを卸したいというお話だと思っています。基本的に農協

に入っていないと直売所に卸せませんので、そういったところはなかなか難しいと思っています。地域でそういった方が何人かいらっしゃるということであれば、市のほうでということになりますと、JA 関係以外ですとブランド情報発信センターとか、ニコニコ本陣とかがあります。どうしてもという場合はお話しいただければ、そこに置くということはある程度可能だと思いますが、移動距離だとかそういったことを考えると、実践的に薄いのかなと思っています。旅館で朝市などを JA でやっておりまして、そういった仕組みなどを研究しているところです。そういったところは JA のほうから勉強させていただいて、もし可能であれば、湯西川の旅館であったり、あるいは栗山の民宿もありますので、そういったところで朝市的なものを開催するというアイデアも提供できるのかなと思っています。栗山のそばというのは有名ですので、ブランド化していきたいというときの支援なのですが、農家の方が 3 名ほどいないと無理なのですが、全額ということではないのですが、20 万円の限度額で半分までは支援する事業があります。その中には講師を派遣したり、販売の経路とかまで含めて面倒を見られるような補助制度もありますので、やり方によってはあまりお金をかけなくてもできるものもあると思いますので、そういったことをみんなでやりたいということがあれば、農林課のほうになると思いますが、ご相談をいただきたいと思います。

行政経営部長 伝統野菜の川俣菜の栽培のことがあると思うのですが、それについてお話をいただきたいと思います。

参加者 12 今日の会合のはじめにも、高齢化が進んで 5 割を超えているような状況だという話がありました。高齢者が元気になる地域を目指していろいろやっているのですが、高齢者の元気はやはり体の健康と生きがいづくりで、これには栗山でやっているような小さな畑を活用して、それぞれ楽しんで農作物をつくるのが一番いいと思っています。川俣には昔から地元で種を取ってつくっている、川俣菜という野菜があります。これについては、いろいろ活用方法があるのですが、私の家ではみそ汁の具とか、漬物とかそういったものに利用しているのですが、以前日光ブランドに推薦しましたところ、生産量が少ないということでブランドにはならなかったのです。昔からつくられているカブ菜は、大根の小さいようなカブがついています。いつから伝わっているのかわかりません。川俣地域では 5 年前から高校生ボランティアネットワークの今市高校と今市工業高校の生徒さんが、高齢化になった川俣を元気にしていただくとお手伝いを、日光市並びに日光市社会福祉協議会の紹介で続けさせていただいております。実は、今年から川俣菜を、川俣自治会の方と高校生でつくろうということで、その取り組みを始めました。地元は高齢の人がほとんどなので、力もあまり出ないですが、若い人の力と若い人の豊かな感性で、何とかこの川俣菜を若い人と一緒になって栽培していければと取り組んでいます。私はそれだけではなくて、川俣菜を少なくとも栗山のどこの集落でも栽培できるような、そういう方向にもっていきたいなと、そのために若い高校生の力を借りたい。種の採取を小規模でやっているものですから、これをほかの地域まで広めるということになると、まずは種をたくさん採らなくてはならないので、高校生の皆さんにお願いしているのは、今年は種をたくさん採ろうということです。高校生と採った川俣菜については、今年の秋に栗山地域で開催される、栗山マルシェに出品したいということも合わせて計画しております。川俣菜は、高齢者でも手間がかからずつくれる野菜です。ただ菜の花などと一緒に植えると交配してしまい、実際の野菜に変化が起きるなど、そういう生産の注意はあると思いますが、素人が昔からやってい

る栽培方法なので、どれが正しい栽培方法になるのかというのは私もわからないので、今、勉強をしている最中なのですが、できたらそういったアドバイスをしていただけるような人を斡旋していただければと思います。高校生ボランティアの皆さんと我々は交流しているのですが、それが我々の元気の源になっていますので、ぜひ高校生ボランティアネットワークの生徒の交流活動についても、市のほうでも積極的に支援していただきたいということをお願いしたいと思います。

産業環境部長 川俣菜の研究というところなのですが、川俣地区の場合、先ほど話しましたようにブランド化事業を農林課でやっても、なかなか難しいのかなと思っています。どうしてもというところで考えたのは、まちづくり事業補助金とか川俣地区、地域、自治会で広めたいというところであれば、そういった補助金を活用してやっていくのも一つかなと思っています。また実際に生産をされて、ある程度生産の見込みがつくということになれば、それはそれで農林課で販売のお手伝いなりは考えていきたいと思いますが、現時点では生産量が少なくブランド化になっていないというところもありますので、そこは今後の川俣地区の取り組みの中で、支援ができるものについてはご相談をさせていただければと思います。

地域振興部長 高校生ボランティアネットワークへの支援とか、連携とか実際の活動の部分ですが、社会福祉協議会が中心なのですが、地域振興部も連携して、伝統行事の継承であるとか、支援などで関わっています。今後も、連携を図りながら、支援していきたいと思っています。

副市長 シカの食害はどうですか。

参加者 1 2 種が非常に小さいので、今のところ私がやった経験では、鳥が植えた種をほじくるというのはないです。猿に食べられるというのも、今のところはないです。ただ、生産したものを採って、葉っぱを干したヒバというものがあります。これを鹿汁に入れると味が数段アップするということです。今は鹿肉を食べることができないのですが、商品化できればそれに合う野菜として非常にいいと思います。

副市長 鹿に食べられないように、囲いとかしているのですか。

参加者 1 2 最近それはやっています。ぜひ皆さんにも提供したいなと思っていましたが、今は捕れないものですから、機会がありましたら食べていただきたいと思っています。

行政経営部長 続きまして、地域の特性を生かすということで、13 番の方の観光ツアーについてお願いします。

参加者 1 3 私からは、課題というよりは報告になります。前半に話題になった、年 30 回くらいのアウトドア体験栗山ツアーの企画に関わらせていただいています。栗山の伝統や文化がたくさんあると思いますが、できる限り継続させるヒントがそこにあるというように感じています。栗山には石焼きとか獅子舞とか西沢金山跡地とか、狩猟の文化とか栗山にしかない貴重な伝統や文化がたくさんあります。そ

れらは元々、外の誰かに見せるということではなかったのですが、あえて観光ツアー化しました。それによって外部の人が、その魅力を知るきっかけとなったり、お客さんによってはお金を払って来てくれて喜んでもらったり、それを地元の方が誇りに感じるというような仕組みが、年に数回ではありますが、地元の方の協力があるってできるようになっています。どこかの成功事例のように、それ自体で収益を上げて儲かるとかまではいっていないのですが、そういった栗山の宝をこれからも長く続けることは、非常に意義があると思っていますので、今後もできる限りツアーを続けていきたいと思っています。

観光部長 観光プレゼンありがとうございます。おっしゃいますように伝統文化とかそういったものは観光資源になっていますが、今後ますますなっていくのだろうと思います。それでお客さんが来てくれる、そしてそれが地域の誇りに繋がるというかたちで、確かに好循環というか、いいサイクルで非常にありがたいことだと思っています。よろしくお願いします。

行政経営部長 それでは最後になるかと思いますが、最初にも話がありました観光振興による雇用の創出というところですが、こちらについてお話をしていただければと思います。

参加者 1 1 若者などの人口増対策であれば、やはり観光が中心になると思います。今年から東武鉄道でSLの太樹が運行されていると思いますが、観光客が増えたという報告を聞いています。私の提案ですが、路線バス川俣線でボンネットバスを導入したらどうかと考えています。バスの乗客増そして観光客増に繋がると思って、私は提案しました。

観光部長 アンケートにあります観光の振興は雇用促進に繋がるというのは、まさしくおっしゃるとおりだと思っています。先ほども少しお答えさせていただきましたが、観光を軸にして裾野の広い産業になっておりますので、そこを進めていくことは、雇用の促進に繋がっていくと考えています。市としても昨年度に改定した観光振興計画がありますので、それを順次進めていきたいと思っています。

副市長 ボンネットバスなのですが、今日は公共交通の担当が来ていないので詳しいことは言えないのですが、足尾でもボンネットバスの話が出たのですが、バスの運行上、低床のバスと決められていて、その辺の基準をクリアするために、ボンネットバスは難しいということだった気がします。栗山の路線の条件を確認した上で、お答えさせていただきます。

参加者 1 1 市のほうも確か多大な補助をしていると思うので、そういう意見はとおるのかなと考えました。

副市長 可能であれば。更新の時期もタイミングが合うか合わないかあると思いますので、そこは少し確認をさせていただいた上で、再度お伝えしたいと思います。今日のところは申し訳ございません。

行政経営部長 アンケートのほうでいただきました内容につきましては、いろいろな方向からお話をいただきました。ありがとうございました。それでは大嶋市長からお願いします。

市長 2時間ですが、色々ご意見をいただきまして誠にありがとうございました。私自身が皆さまのお話をお聞きしながら、この地域の状況は、改めて良く認識をさせていただきました。湯西川、栗山、川俣、奥鬼怒とこの栗山地域で皆さんが頑張っておられるということが非常にわかりました。

私は所信表明の中に、日光プライドという言葉を使っております。これを日本語にしますと、私がイメージしているのは、日光愛、郷土愛、地域アイデンティティ、そんな感じの日光プライドですが、合併する前の5市町村それぞれに、それぞれの地域のプライドがあると思います。この中で言えば栗山プライド、それを次の世代にもしっかりと繋いでいきたいと思っています。その次の世代が、もしかすると東京や埼玉、もしくは外国で活躍することもあると思いますが、やはり栗山プライドを持ち続けてほしいなと思います。

2市2町1村が合併して、新しく大きくなり12年経ちました。新しくなったこの大きな世界に冠たる日光のプライドも、やはり栗山プライドと同時に皆さんには持っていて、次の世代にもダブルスタンダードで2つのプライドを繋いでいきたいなと思います。ぜひ、今後も皆さんでこの地域の発展、維持継続というものに力を合わせて、知恵を出し合って官民協働でやっていきたいと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

最後に先ほどご提案いただいたというかご質問いただいた高齢者の足の確保というところですが、これは栗山地域に限らず例えば今市地域の南部とか農村部とかは、実際にバス路線はあっても出てきている話です。少しお時間をいただいて、庁内でも喧々諤々議論をしながら、それぞれの地域にあったかたちを見つけていかないとダメな部分もあると思うので、法律の部分と各地域の事情と民間の事業者と、その中でいかにしてその地域で足を確保していくかというのは、知恵の出どころだと思います。できるだけご期待に応えられるようにやっていきたいと思っています。ぜひ今後ともよろしくお願い申し上げます。